

2年次・シラバス

令和5年度 山形県立左沢高等学校 シラバス 2年次目次

P	科目名
31	論理国語
32	古典探究
33	郷土文学
34	世界史探究
35	日本史探究
36	公共
37	N I E
38	数学Ⅱ
39	数学A
40	実用数学
41	化学基礎
42	生物基礎
43	プライマリーサイエンス
44	体育
45	保健
46	音楽Ⅱ
47	美術Ⅱ
48	書道Ⅱ
49	ピアノ実習 a
50	デザイン基礎
51	英語コミュニケーションⅡ
52	論理・表現Ⅰ
53	英語会話
54	コミュニケーション中国語基礎
55	家庭総合

P	科目名
56	農業と環境
57	総合実習
58	果樹
59	食品製造
60	植物バイオテクノロジー
61	簿記
62	情報処理
63	スポーツⅡ
64	総合的な探究の時間

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
国語	論理国語	2	全系列	必履修			2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○未定 □未定 △国語辞書		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	1. 論理と出会う	・ 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について正確に読み取り、主張を理解する。
	期末 考査 まで	2. 具体と抽象 3. 対比を捉える	・ 学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み、自分の考えを論述したり発表したりする。 ・ 関心を持った事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文にまとめたりする。 ・ 社会的な話題について書かれた文章や関連資料を読み、それらの内容をもとに自分の考えを論述したり発表したりする。
2 学期	中間 考査 まで	4. 主張をつかむ 5. 論理的に書く	・ 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について正確に読み取り、要約したり主張を理解したりする。 ・ 設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめる。
	期末 考査 まで	6. 統計資料を活用する 7. 比べて読む	・ 文章と資料を的確に読み取り、関連づけて理解し、効果的に活用する。 ・ 複数の資料や文章を比較し、整理して、自分の考えを持つ。
3 学期	年度末 考査 まで	8. レポートを書く	・ 設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
国語	古典探究	2	教養	選択	3年次も継続履修	最大10名・ 最少1 名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○未定 □未定 △古語辞典		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		・【古文】説話 ・【古文】古典文法の基本 ・【漢文】故事 ・【漢文】訓読の歴史	・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える活動。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める活動。 ・漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉える活動。 ・我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める活動。
	期末 考查 まで	・【古文】歌物語 ・【古文】随筆1 ・【漢文】史伝	・作品の成立した背景を踏まえ解釈することで、作品の価値を考察する活動。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分のものの見方、考え方を深める活動。 ・正確に書き下し文に直し、内容を的確に捉える活動。
2 学期		・【漢文】漢詩 ・【古文】日記文学 ・【古文】物語	・漢詩の構成やルールといった特徴を学び、内容を的確に捉える活動。 ・内容を的確に捉え、当時の歴史的背景を踏まえた上で自身の考えを深める活動。 ・内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりする活動。
	期末 考查 まで	・【古文】随筆2 ・【漢文】思想 ・【古文】歴史物語	・構成・展開に注意し、内容を的確に捉えた上で作品に通底する思想について考察する活動。 ・作品の思想に触れ、自身の考えを深める活動。 ・作品が成立した背景を踏まえながら解釈を深め、作品の価値について考察する活動。
3 学期	年度末 考查 まで	・【漢文】文章 ・【古文】和歌・俳諧	・正確な書き下し文によって内容を的確に捉える活動。 ・和歌や俳諧の言葉の使い方を理解し、歌文化の特質を学ぶ活動。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
国語	郷土文学 (学校設定科目)	2	教養	選択	なし	最大 7名・ 最少 2名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○なし □なし △国語辞書		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を高める。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考查 まで	○オリエンテーション	・ 作品を細部まで見つめ、深く読み取る。
		○吉野弘の詩を読む。 ・ 『I was born』等を扱う。	・ 詩の表現に着目し、描かれた世界を豊かに想像する。また、詩の表現の特徴や効果について、自分の考えを持つ。 ・ 詩について考えたことを交流することで、ものの見方や考え方を広げる。 ・ 作者の様々な作品に触れることで、読書に親しむ。
2 学期	期末 考查 まで	○『奥の細道』を読む。 ・ 「立石寺」「最上川」等を扱う。	・ 我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。 ・ 自分が目にした景色と作品の表現を重ね合わせ、筆者が見た情景をより豊かに想像する。 ・ 他の章段も積極的に読む。
		○井上ひさしの作品を読む。 ・ 『父と暮せば』等を扱う。	・ 映像化された作品と原作を比較して、それぞれの表現方法の効果について自分の考えを持つ。 ・ 作品に込められた筆者のメッセージを読み取り、交流することで、社会・人間・平和について考えを深める。
3 学期	年度末 考查 まで	○斎藤茂吉の短歌を読む。 ・ 『赤光』所収「死にたまふ母」等を扱う。	・ 表現に着目して歌の世界を想像したり読み込まれた心情を考えたりして、鑑賞文を書き、考えたことを伝え合う。 ・ 短歌に関連した情景を実際に見て、自分でも詠むことで、郷土の魅力を発見する。
		○大江町の民話を読む。 ・ 『鶴の恩返し』『鶴女房』等を扱う。	・ 他の民話と比較して相違点を見つけ、それぞれの表現効果について、自分の考えを持つ。 ・ 方言特有の言葉の響きを意識して作品を味わう。
3 学期	年度末 考查 まで	○山形出身、在住の作家の作品を読み、POPを作成する。	・ POPの作り方を学習し、作品の魅力を効果的に伝える方法を理解する。 ・ 読解を深め、適切なキャッチコピーや紹介文を考える。
		○浜田広介の童話を読む。 ・ 『ないた赤おに』等を扱う。	・ 表現に着目し、登場人物の性格等を適切に分析する。 ・ 作者の伝えたかったことを意識して、物語の続きを創作する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
地歴	世界史探究	2	教養	選択	3年次に必ず同じ科目を継続履修	最大15名・ 最少4名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「新詳 世界史探究（帝国書院）」 □・・・検討中 △「暗記」ではありません。「みて、考え、自分で語れるようになる」学習をします。		世界各地の歴史を通史的に俯瞰しつつ、各地域・時代に特有の、あるいはそれらを越えて共通する問題に気づき、それらを「今の・これからの自分たち」に与えられた課題として探究的な取り組みを通して認識を深め解決への糸口を見出す。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考查 まで	Ⅰ・世界史へのまなざし Ⅱ・諸地域の歴史的特質の形成	地球環境から見る人類の歴史 日常生活から見る世界の歴史
			古代文明の歴史的特質 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質
2 学期	期末 考查 まで	Ⅱ・諸地域の歴史的特質の形成	南アジアと東南アジアの歴史的特質 西アジアと地中海周辺の歴史的特質
		Ⅲ・諸地域の交流・再編	ユーラシア大交流圏の成立 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出
3 学期	年度末 考查 まで	Ⅲ・諸地域の交流・再編	主権国家体制の成立と交易の拡大

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
地理歴史	日本史探究	2	教養	選択履修	3年次の「日本史探究②」を継続履修する。	最大40名・ 最少3名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○・・・検討中 □・・・検討中		日本の歴史を通史的に俯瞰しつつ、各地域・時代に特有の、あるいはそれらを越えて共通する問題に気づき、それらを「今の・これからの自分たち」に与えられた課題として探究的な取り組みを通して認識を深め解決への糸口を見出す。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考查 まで	第Ⅰ部原始・古代	第1章「日本文化のあけぼの」 第2章「古墳とヤマト政権」
2 学期	中間 考查 まで	第Ⅰ部原始・古代	第3章「律令国家の形成」 1 律令国家への道 2 平城京の時代
	期末 考查 まで	第Ⅰ部原始・古代	第3章「律令国家の形成」 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容
3 学期	年度末 考查 まで	第Ⅰ部原始・古代 第Ⅱ部中世 第5章「院政武士の躍進」 第6章「武家政権の成立」 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会	第4章「貴族政治の展開」 第5章「院政武士の躍進」 第6章「武家政権の成立」 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
公民	公共	2		必履修	なし	全員	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「公共」（東京書籍） □・・・検討中 △		他人とのつながり・社会との関わりについて「自分の」問題である、という意識と行動を定着させる。そのために単元のテーマ毎に課題探究的学習を積み重ね、地球規模の課題に主体的に関わっていく公民的資質を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	I・私たちが作る社会 (1) 社会の中の私たち	青年期と社会参画
	期末 考査 まで	(2) 思想から学ぶべきもの (3) 私たちの社会の基本 原理	宗教・思想・伝統社会と文化 倫理的な見方・考え方 社会の基本原則と憲法の考え方
2 学期	中間 考査 まで	II・社会のしくみと諸問題 (1) 私たちと法	法の意義と司法参加
	期末 考査 まで	(2) 私たちと政治	民主社会と政治参加 国際政治の動向と平和の追求 市場経済のしくみ
3 学期	年度末 考査 まで	(3) 私たちと経済 III・持続可能な社会の実 現に向けて	豊かな社会の実現 国際経済の動向と格差の是正 それまでの授業・学習で身につけたことを生かして、地球規模の課題についての探究的な学習を行う。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
公民	N I E (学校設定科目)	2	教養	選択	なし	最大15名・ 最少4名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○、□・・・なし（購入しません） △・・・新聞やその切り抜き・縮刷版などを使用します（基本的に教師が準備します）		新聞を活用し、情報が氾濫する現代社会に必要な不可欠な「メディア・リテラシー」を育成する。これにより、自らが生きる社会への興味関心を喚起し、広い視野に立って現代社会を主体的に考察させ、民主国家の有意な形成者として必要な公民としての資質を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	※定期 考査は実施 しません	1 新聞の構成を理解する。	(1) 紙面がどのような構成を取っているか調べる。 (2) 記事のスタイルを読み取る。
		2 『新聞コンクール』等への参加	(1) 自分にとって興味・関心のある記事やテーマを自分で選ぶ。 (2) 同じ記事のに対する「自分の読み方」と「他人の読み方」の異同を意識し、さらに深く考察する。
2 学期	※定期考 査は実施 しません	3 (1) 新聞を活用して読者の立場を考える。 (2) 同じテーマの記事を読み比較・考察する。	(1) 記者の視点の違いを読み取る (2) 適切な見出しを考える (3) 見出しを比較する (4) 要旨をとらえる
		4 新聞の読み取りから政治・社会・地域を考える。	(1) 地方紙と全国紙のを比較し、その違いとそれぞれの存在意義を考える。 (2) 新聞のコラム(天声人語、編集手帳など)を使い、自分と社会のかかわりを理解する。
3 学期	※定期考 査は実施 しません	5 これまでの自分たちの学習活動や学校行事等を「新聞」としてまとめ、表現する。	(1) 3～4人で1グループを作り、各グループが別のテーマで「新聞」を作る。 (2) 見出し・リードの設定や「逆三角形」の構成など「知らない人でも読みやすい」紙面作りを実現する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
数学	数学Ⅱ	2	全系列	選択		最大 40名・ 最少 1名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○最新数学Ⅱ（数研出版） □パラレルノート（数研出版） △進学試験などで数学が必要な生徒、数学が得意な生徒に選択して欲しい。		・3次以上の式の展開、因数分解をすることができる。 ・方程式、不等式を座標平面上で捉え、課題解決をすることができる。 ・数学Ⅰで学習した三角比に連続性を与え、三角関数として処理することができる。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	第1章 式と証明	・二項定理の考え方を理解し、3次以上の式の展開をすることができる。 ・因数分解を利用し、分数式の四則演算をすることができる。 ・実数の性質と式変形を組み合わせ、等式や不等式の証明をすることができる。
	期末 考査 まで	第2章 複素数と方程式	・複素数の概念を理解し、複素数の四則演算をすることができる。 ・方程式の解の意味を理解し、2次方程式の判別式、解と係数の関係を活用することができる。 ・剰余の定理、因数定理を利用し、高次方程式を因数分解を用いて解くことができる。
2 学期	中間 考査 まで	第3章 図形と方程式	・座標平面上でのグラフと方程式の関係を理解し、方程式を視覚化することができる。 ・直線の方程式、円の方程式を理解し、連立方程式や連立不等式の考え方を座標平面上で計算処理することができる。
	期末 考査 まで		・動点の軌跡を座標平面上でとらえることができ、式変形を通して、方程式を座標平面上での点の動きとして計算処理することができる。 ・日常生活での課題を、連立不等式を用いて、解決することができる。
3 学期	年度末 考査 まで	第4章 三角関数	・一般角と弧度法の概念を理解し、数学Ⅰで学習した三角比の一般化をすることができる。 ・単位円の概念を理解し、三角関数の方程式や不等式の処理をすることができる。 ・三角関数の加法定理を理解し、2倍角の公式、3倍角の公式、三角関数の合成などに応用し、発展的な考察をすることができる。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
数学	数学A	2	全系列	共通			2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○最新数学A（数研出版） □パラレルノート（数研出版）		・場合の数や確率の計算を通して、日常生活で数の意味を実感することができる。 ・図形の性質を原理から一つ一つ組み立てることができ、それらを用いて、様々な図形について考察することができる。 ・数を多角的に捉えることができ、日常生活で数学的思考の活用を目指す。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1. 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 検査 まで	第1章 場合の数と確率	・数学Ⅰで学習した集合の考え方を用いて、集合の要素の個数に応用させ考察することができる。 ・既習の樹形図の考え方を応用させ、様々な場合の数を四則演算で求めることができる。 ・「並べる」よ「選ぶ」の区別を理解し、記号Pと記号Cを用いて計算処理することができる。
	期末 検査 まで		・場合の数の考え方を利用し、様々な場合の確率を計算することができる。 ・文章から状況把握を的確にし、確率の和の法則、積の法則を利用し、計算処理することができる。 ・様々な確率の計算結果から、日常生活における確率の意味を実感することができる。
2 学期	中間 検査 まで	第2章 図形の性質	・角の二等分線、垂直二等分線などから、三角形の三心について理解することができる。 ・チェバの定理、メネラウスの定理から各々の線分の長さを求めることができる。
	期末 検査 まで		・直線の性質と円の性質を組わせて、様々な図形の定理を理解することができる。それらを活用し、様々な図形の線分の長さ、角の大きさを求めることができる
3 学期	年度末 検査 まで	第3章 数学と人間の活動	・既習の素因数分解を利用し、約数や倍数の性質を考えることができる。 ・ユークリッドの互除法を理解し、1次不定方程式の処理をすることができる。 ・10進法以外の記数法の良さを学び、活用することができる。」 ・数を多角的に捉えることができ、ゲームやパズルの中で数学的思考を入れることができる。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
数学	実用数学	2	全系列	選択		最大40名・ 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
□受かる数学検定準2級 △数学が好きな生徒、数学検定を受験したい生徒に 選択して欲しい。		・既習の知識を活用し、文章を読み解き、問題解決に努める。 ・既習の知識の本質を考え、様々な定理、公式への結びつきを考察する。					

評価の観点	各観点の 比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点 満点	(5 ・ 4 ・ 5 段 3 ・ 2 ・ 1)
②思考・判断・ 表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に 学習に取り組 む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	≪計算力を養う問題≫ 1 数と式の計算 2 方程式、不等式の計算 3 関数 4 集合 5 三角比 6 数の規則性	≪計算力を養う問題≫ ・主に、数学Ⅰで学習した内容の復習、発展的な問題演習です。 ・3次式の展開や因数分解をすることができる。 ・方程式の解の性質を理解し、2次方程式の解と係数の関係を利用し、問題解決をすることができる。 ・2次関数の特徴を理解し、最大値や最小値の考察をすることができる。 ・集合の考え方を活用し、様々な集合の要素の個数を求めることができる。 ・三角比の相互関係を利用し、三角比の式の処理、図形の測量をすることができる。 ・数の規則性を読みとり、その規則性から一般項や和を求めることができる。Q
	期末 考査 まで		
2 学期	中間 考査 まで	≪計算力を養う問題≫ 7 場合の数 8 確率 9 平面図形 ≪思考力を養う問題≫ 1 式の計算 2 方程式の応用 3 関数の応用 4 場合の数と確率の応用 5 平面図形の応用	・主に、数学Aで学習する内容の問題演習です。 ・計算記号PやC利用して、場合の数や確率を論理的に計算することができる。 ・平面図形の原理を知り、様々な定理を理解することができる。それらを活用し、線分の長さ、角の大きさを求めることができる。 ≪思考力を養う問題≫ ・式の展開や因数分解の公式を理解し、文章を読み解き、論理的に式変形を用いて説明することができる。 ・やや煩雑な計算を工夫して計算することができる。 ・関数や数の規則性と、場合の数や確率の考え方を融合させた問題を解決をすることができる。 ・様々な図形の問題を、三角比を用いた計算や平面図形の定理を活用して解決をすることができる。
	期末 考査 まで		
3 学期	年度末 考査 まで	≪思考力を養う問題≫ 総合問題	これまで学習した内容を融合させ、課題を多方面から捉え、問題解決をすることができる。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
理科	化学基礎	2	教養	選択	なし	最大20名・ 最少 4名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○新編化学基礎（東京書籍） □フォローアップドリル化学基礎（数研出版）		1 化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 2 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 3 酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できる。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	1 物質の性質と分離	混合物から純物質を分離・精製する方法と混合物と純物質の違いについて理解する。
	期末 考査 まで	2 原子の構造	原子の科学的な構造を知り、化学結合しなければならない理由を理解する。
2 学期	中間 考査 まで	3 化学結合	原子同士の結合の仕方を理解し、単体、化合物の性質を類推することができる。
	期末 考査 まで	4 物質質量と化学変化	物質質量を理解し、物質質量の観点から化学反応式を立式することができる。
3 学期	年度末 考査 まで	5 化学変化の量的関係	化学変化における、質量、体積などの物理量の変化を計算で求めることができる。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
理科	生物基礎	2	全系列	必履修	なし	最大 名・ 最少 名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○ □		日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動	
1 学期	中間 考査 まで	1 生物の特徴 (1)生物にみられる共通性と多様性	観察を行い、生物の共通性や多様性について考え、細胞および生物の構造について学習する。	
	期末 考査 まで	(2) 生物とエネルギー 2 遺伝子とその働き (1)遺伝情報とDNA	生物の活動に必要なエネルギーの出入りと生物に必要な物質の合成・分解について学習する。 DNAの抽出実験を通して、遺伝情報を担う物質としての特徴を学ぶ。	
2 学期	中間 考査 まで	(2)遺伝情報とタンパク質の合成 3 神経系と内分泌系による調節 (1)情報の伝達	遺伝情報が生命現象にどのように関係しているのか、またそれが医療や農業の分野でどのように利用されているのかを学習する。 体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを学習する。	
	期末 考査 まで	(2)体内環境の維持の仕組み (3)免疫	体内環境の維持とホルモンの働きとの関係、また自律神経との関連を学習する。 体内に侵入する異物を排除する防御機構について学習する。	
3 学期	年度末 考査 まで	4 生物の多様性と生態系 (1)植生と遷移 (2)生態系とその保全	植生の遷移を要因とともに理解し、バイオームと関連付けて学習する。 生物の多様性と生物間の関係性について理解し、生態系のバランスやその保全の重要性を学習する。	

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
理科	プライマリーサイエンス	2	教養	選択	なし	最大30名・ 最少2名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○なし □理科へのステップ（東京書籍） △理科の学びなおしをしたい人におすすめ		小学校から中学校までの理科の学習内容を中心に振り返り学習を行い、理科に関する基礎的・基本的事項を確実に身につけ、科学的な見方の基礎を培う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考查 まで	植物の世界	植物の観察を通して、からだのつくりの共通点と相違点を学習する。 呼吸や光合成のはたらきについて実験を基に理解する。
	期末 考查 まで	身のまわりの現象・物質	光・音・力について身近な事例についてそのしくみを理解する。 金属・気体の性質、水溶液、状態変化など、実験を通して学習する。
2 学期	中間 考查 まで	大地の変化	火山活動、火成岩のつくり、地震、地層について、事例を取り上げながら学習する。
	期末 考查 まで	化学変化と原子・分子	原子・分子の構造、化学式・化学反応式の書き方、酸化・還元などの化学変化について学習する。
3 学期	年度末 考查 まで	天気とその変化	天気や水蒸気量、大気の動きについて学習する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
保健体育	体育	2	全系列	必履修		最大 名・ 最少 名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「現代高等保健体育」(大修館書店) □「アクティブスポーツ2022総合版」(大修館書店)		①運動について理解し、運動の合理的な実践ができるようにする。 ②生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。 ③体力を向上させる。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考查 まで	1 体づくり運動(通年) 2 体育理論(通年6回) 3 ラジオ体操第二 4 スポーツテスト 5 選択授業① (1) 球技Ⅰネット型・ベースボール型(バレーボール、ソフトボール) (2) 武道(柔道)	・体ほぐしの運動や体力を高める運動を通して、体を使う楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進や体力の向上を図る。 ・体育理論では運動・スポーツの文化的特性や特徴について理解できるようにする。 ・ラジオ体操では第二運動を覚え、試験を実施し体育授業開始時の準備運動として継続させる。
2 学期	期末 考查 まで	6 選択授業② (1) 陸上競技(競走、跳躍、投てき) (2) ダンス(創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス) 7 選択授業③ (1) 球技Ⅱゴール型・ネット型(バスケットボール・サッカー、バドミントン・卓球) (2) 器械運動(マット、平均台、跳び箱)	・スポーツテストを実施し、自分の体力の現状を把握することで体力の向上につなげる。 ・選択授業①では球技Ⅰ、武道から1種目を選び、基本的技能を習得しながら、現状の能力で試合ができるようにする。 ・選択授業②では陸上競技、ダンスから1種目選び取り組む。陸上競技では記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わいペースの変化等に対応して走れるようにする。ダンスでは、全身を使い、仲間と対応して踊ることができるようにする。 ・選択授業③では球技Ⅱ、器械運動から1種目選び、基本的技能を習得しながら、現状の能力で試合をしたり演技したりできるようにする。 ・選択授業④では球技Ⅲから1種目選び基本的技能を習得しながら、現状の能力で試合ができるようにする。
3 学期	年度末 考查 まで	8 選択授業④ (1) 球技Ⅲゴール型(バスケットボール、フットサル)	・球技においては勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間との連携したゲームを楽しめるようにする。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
保健体育	保健	2	全系列	必履修		最大 名・ 最少 名	1
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「現代高等保健体育」 (大修館書店) □「現代高等保健体育ノート」 (大修館書店)		①生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理を行う能力を養う ②課題解決を導入し、自己の健康の問題を自ら発見し解決する能力を育てる ③現在だけでなく将来の生活を見据えて、学んだ知識を活かし、生活に役立てることができるようになる					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 オリエンテーション 2 ライフステージと健康 3 思春期と健康 4 性意識と性行動の選択 5 妊娠・出産と健康 6 避妊法と人工妊娠中絶 7 結婚生活と健康	・男女差や個人差があることを理解し、異性を尊重する態度を身につける ・妊娠中や出産後の健康管理の重要性について理解を深め、望まない妊娠をしないことを学ぶ
2 学期	期末 考査 まで	8 中高年期と健康 9 働くことと健康 1 0 労働災害と健康 1 1 健康的な職業生活 1 2 大気汚染と健康 1 3 水質汚濁・土壌汚染と健康 1 4 環境と健康に関わる対策 1 5 ゴミ処理と上下水道の整備	・保健内容に関して、日頃疑問を持っていることを研究し、生涯にわたる健康について学ぶとともに、課題への探究、思考力を身につける ・我が国の高齢化の速さの現状を知り、高齢者のための社会的取り組みについて学習する ・環境問題を日常生活と関連させながら考え、実践力を身につける
3 学期	年度末 考査 まで	1 6 食品の安全性 1 7 食品衛生にかかわる活動 1 8 保険サービスとその活用 1 9 医療サービスとその活用 2 0 医薬品の制度とその活用 2 1 さまざまな保健活動や社会的対策 2 2 健康に関する環境づくりと社会参加	・実際に起きた食問題について考え、食品の安全確保のためにどのようなことが行われているのかを学ぶ ・保健・医療制度のしくみや活用を学ぶ

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術	音楽Ⅱ	2	全系列	選択必修	音楽Ⅰを履修済みであること	最大 22名・ 最少 1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○ MOUSA 2（教育芸術社） △ 学習プリント（随時）		音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	歌唱Ⅰ（表現・鑑賞）	正しい発声法を身に付けよう。 日本や外国の歌曲に親しみ独唱に挑戦しよう。 ボディー・パーカッションに挑戦しよう。
	器楽Ⅰ（表現・鑑賞）	校歌（混声4部）のキーボード合奏に挑戦しよう。
	創作Ⅰ（表現）	メロディ創作をしよう。
2 学 期	歌唱Ⅱ（表現・鑑賞）	日本や外国の歌曲に親しみ独唱に挑戦しよう。 表現を工夫して合唱やアンサンブルをしよう。 校歌の混声四部合唱に挑戦しよう。
	器楽Ⅱ（表現・鑑賞）	世界の諸民族の音楽に親しもう。 箏の豊かな響きを味わおう。
	創作Ⅱ（表現）	メロディ創作をしよう。
3 学 期	歌唱Ⅲ（表現・鑑賞）	郷土の民謡や芸能に親しもう。表現を工夫して合唱やアンサンブルをしよう。
	器楽Ⅲ（表現・鑑賞）	ギターの弾き歌いをしよう。
	創作Ⅲ（表現）	簡単アレンジ（編曲）に挑戦しよう。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術	美術II	2	全系列	選択	1年次に「美術I」を履修	最大25名・ 最小1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○日文「高校生の美術2」 □なし △教材費等で1500円を集金します。授業内容に合わせたプリントや資料等を配布します。		美術の創造的な諸活動を通して、創造的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	これから決めます	現在検討中です。		100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1) 5段階
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	※定期考査は実施しません	1 教科書の鑑賞・美術史について	美術の起源から現代までの美術の流れを確認し、表現とは何か、絵とは何を描くものなのかを考える。
		2 油彩で描こう（題材選択）	美術Iで学んだ油彩の特徴や技法を基に、さらに画面構成や配色、心情、情景などを創造的に表す。 ①水による演出②奥行きや空間を捉える③ものの質感を生かして④人物のイメージや心情を捉える ①～④から題材を1つを選択。
2 学期	※定期考査は実施しません	3 行為を誘うデザイン	（1）形や色彩などの効果などに着目し、使う人の行為や心情などを考えてつくられたデザインの意図や工夫を鑑賞する。 （2）使う人、用途、場面、気持ちなどを考えて形作られたデザインにどんな工夫が施されているかを理解し、自分の制作計画を立てる。
		4 版の表現	（1）版画の種類や技法について学ぶ。 （2）銅版画、シルクスクリーン、複合技法などのよさや特性を理解し、その効果を生かして表現する。
3 学期	※定期考査は実施しません	5 複数の写真で表す	複数の写真を組み合わせることから生まれる効果を生かし、表したいテーマを創造的に表現する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術Ⅱ	書道Ⅱ	2	全系列	必履修	1年次に「書道Ⅰ」を履修	最大30名・ 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○書道Ⅱ（東京書籍） ペン字の基礎学習（教育図書）		△ 様々な用筆を駆使し、より深い楷書・行書作品を書き上げる。また、篆書・隸書・草書古典に触れ、書体の変遷を理解する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考查 まで	楷書(北魏)	①張猛龍碑(方筆の書) ②鄭義下碑(円筆の書)
	期末 考查 まで	行書・草書	①集王聖教序②灌頂記③書譜
2 学期	中間 考查 まで	篆書 仮名	①泰山刻石②石鼓文 高野切第三種
	期末 考查 まで	漢字一時創作 刻字	様々な筆法を駆使し、字を大胆に表現する。
3 学期	年度末 考查 まで	漢字かな交じりの書	様々な筆法を駆使し、字を大胆に表現するとともに、作品効果（余白の粗密）を考慮した作品づくり。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術	ピアノ実習 a (学校設定科目)	2	教養系列他	選択	鍵盤楽器を所有 しており自宅で 予習・復習が可 能であるもの	最大 9名・ 最少 1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
□ 市販のピアノ教則本及び曲集 (5,000円程度)		1 ピアノの基礎的な奏法を身につけて演奏することの喜びを味わう。 2 自分で選択した楽曲を繰り返し練習することにより音楽の特徴や奏法を理解して表現することができる。 3 アンサンブル（連弾）の学習を通してアンサンブル能力やコミュニケーション能力を身につける。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	1 難易度による コース分け	既習曲の聴きとりおよび（初級・中級・上級）への コース振り分け。 基本的な奏法について。 楽譜の読み方、練習方法について。
	2 独奏の練習・レッスン	個人毎に教則本からの課題曲・選択自由曲を練習して レッスンを受ける（主にバイエル、ソナチネ、ソナタ）。 一学期のまとめと発表会を行う。
2 学 期	3 独奏の練習・レッスン	個人毎に教則本からの課題曲・選択自由曲を練習して レッスンを受ける（主にバイエル、ソナチネ、ソナタ）。
	4 連弾の練習・レッスン	連弾曲を選択し、練習してレッスンを受ける（主にバイエル、ソナチネ、ソナタ）。 二学期のまとめと発表会を行う。
3 学 期	5 独奏と連弾の練習 およびレッスン	個人毎に教則本からの課題曲・選択自由曲を練習して レッスンを受ける（主にバイエル、ソナチネ、ソナタ）。 三学期のまとめと発表会を行う。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術	デザイン基礎 (学校設定科目)	2	教養	選択	なし	最大25名・ 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○なし □日本色研「色彩 造形の楽しさ」 △教材費等として1500円集金します。授業内容に合わせプリント等配布します。		1 色彩についての基本的な知識を理解し、生活と色との関わりに興味を持ち、生活の中で色を活用し豊かにしようとする態度を養う。 2 基礎デザインを理解することにより現代のデザインの成り立ちを理解する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	これから決めます	現在検討中です。		100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	※定期考査は実施しません。	1 色彩基礎 2 配色演習 3 色彩構成	デザインの目的とその基本となる色彩についての基礎知識を学習する。色見本やアクリル絵の具を使って実習する。
2 学期	※定期考査は実施しません。	4 分割と配置 5 静と動 6 類似と対照 7 図形のおもしろさ	(1) 身の周りのものや様々なデザイン作品を鑑賞する。 (2) 鑑賞シートの作成を通して、デザインすることの意味をより深く考える。
3 学期	※定期考査は実施しません。	8 いろいろな表現技法	1、2学期で身に付けた知識と技術を活かして制作する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
外国語	英語コミュニケーションⅡ	2	全系列	必履修		最大 名・ 最少 名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「All Aboard! English Communication Ⅱ」（東京書籍） □「All Aboard! English Communication Ⅱ WORKBOOK」（東京書籍） △授業内容に合わせワークシート等を配布します		英語の特徴やきまり、背景にある文化などについての理解を深めるとともに、目的や場面、状況などに応じて、英語を適切に活用できる能力を身に付け、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	Pre-Lesson Lesson 1	My Plans for This Year 今年やってみたいこと A Colorful Island ブラーノ島 関係代名詞 (what)
	期末 考査 まで	Lesson 2	With the Beatles サムのリクエスト 比較表現
2 学期	中間 考査 まで	Lesson 3	Wild Men ワイルドマンの世界 itの用法
	期末 考査 まで	Lesson 4	Little Hero ハチドリのしずく 間接疑問文
3 学期	年度末 考査 まで	Lesson 5 Extra Target 1	Special Makeup in Kbuki 歌舞伎メイクの物語 to不定詞を含む表現 現在完了進行形

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
外国語	論理・表現 I	2	教養系 列他	選択	なし	最小1名 ～ 最大20名程度	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○未定 □未定 △四大・短大などへの進学希望者を対象とする		・ 中学校で身につけた基本事項を「活用する」ことで更に理解を深める。 ・ 日常的な話題について、「聞く」「話す」の対話や「書く」活動を通して英語表現を使えるようにする。					

評価の観点	各観点の 比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点 満点	(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)
②思考・判断・ 表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に 学習に取り組 む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで		
	期 末 考査 まで		
2 学期	中間 考査 まで		
	期 末 考査 まで		
3 学期	年度末 考査 まで		

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
外国語	英語会話	2	教養系 列他	選択	なし	最大20名・ 最少2名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
未定		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。					

評価の観点	各観点の 比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点 満点	(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)
②思考・判断・ 表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に 学習に取り組 む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	中間 考 査 ま で	自分や他人を紹介する	・自己紹介 ・インタビュー ・学校生活
	期末 考 査 ま で	興味があることについて 話をする	・好きなもの ・趣味 ・休暇 ・買い物
2 学 期	中間 考 査 ま で	食べ物や健康について 話をする	・食事 ・体調 ・病院 ・レストラン
	期末 考 査 ま で	自分の住む国や地域について 話をする	・地域の紹介 ・伝統文化
3 学 期	年度末 考 査 ま で	自分の生活と地球への関わり について話をする	・家庭内の役割 ・異文化

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
外国語	コミュニケーション 中国語基礎	2	全系列	選択		最大12名・ 最少3名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
副教材等		中国語の学習を通して、中国語によるコミュニケーション能力の基礎を養い、隣国への興味・関心を高める。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考查 まで		
	期末 考查 まで		
2 学期	中間 考查 まで		
	期末 考查 まで		
3 学期	年度末 考查 まで		

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	農業と環境	2	果樹園芸	選択	「総合実習」と同時履修	最大20名・最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○農業と環境（実教出版） △経費6000円（実習着上下、帽子、長靴）		農業と環境に関連する基本的な知識と技術を修得し、体験的・探究的な学習活動を通して、合理的かつ創造的に解決する力を養い、農業の各分野で活用できるよう、農業の振興や社会貢献に主体的かつ創造的に取り組む態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点（ABC）	100点満点	（5・4・3・2・1）
②思考・判断・表現				100点満点（ABC）		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点（ABC）		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	1 農業と環境を学ぶ 2 栽培の基礎 3 栽培のプロジェクト	(1) 農業・環境学習とは何か (2) 農業と環境の学び方 (1) 作物の特性と栽培のしくみ (2) 作物をとりまく環境と管理 (1) プロジェクトの意義 (2) ダイズの栽培
	期末 考査 まで	3 栽培のプロジェクト	(2) ダイズの栽培
2 学期	中間 考査 まで	3 栽培のプロジェクト	(2) ダイズの栽培
	期末 考査 まで	3 栽培のプロジェクト	(2) ダイズの栽培 (12月に農業技術検定3級を受験します。)
3 学期	年度末 考査 まで	3 栽培のプロジェクト	(3) ダイスの利用と加工 (4) プロジェクトのまとめと発表

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	総合実習	2	果樹園芸	選択	「農業と環境」と同時履修	最大20名・最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○なし △実習着等は、科目「農業と環境」と併用する。		農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、総合的な知識と技術を体系的・系統的に習得し、経営や管理、活用について理解を深め、企画力や管理能力、活用技術などを身につけて、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を育成する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考 査 ま で	○春・夏期間の実習 (1) 果樹部門	◇果樹部門 … オウトウ、ブドウ、リンゴ、セイヨウナシ ①管理作業 (芽かき、摘花、摘果、新梢管理) ②収穫作業 (オウトウの収穫)
		(2) 園芸部門 (草花・野菜)	◇園芸部門 ・草花 … 花壇用苗、鉢物(シクラメンなど) ・野菜 … ナス、枝豆、ネギ、秋野菜など ①花壇用花苗 (サルビア、マリゴールド等) 鉢上げ ②野菜苗の育苗と定植、枝豆栽培 ※ 1学期の学習のまとめ
2 学期	期末 考 査 ま で	○夏・秋・冬期間の実習 (1) 果樹部門	①管理作業 (施肥、除草、新梢管理、袋かけ、着色管理、せん定) ②収穫作業 (ブドウ、リンゴ、セイヨウナシの収穫、貯蔵、調製、販売)
		(2) 園芸部門 (草花・野菜)	①冬鉢物 (シクラメン管理、サイネリア播種) ②夏野菜、秋野菜などの栽培、収穫、販売 ※ 2学期の学習のまとめ
3 学期	年度末 考 査 ま で	○冬・春期間の実習 (1) 果樹部門 (2) 園芸部門 (草花・野菜) 実習のまとめ・成果	①果樹のせん定作業、雪害対策等 ①冬鉢物 (シクラメン、サイネリア) 販売、花壇用花苗の播種 ②野菜苗の播種 (ネギなど) (1) 1年間の学習のまとめ (2) 3年次「課題研究」研究テーマ選定(情報収集)

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	果樹	2	果樹園芸	選択	3年次「果樹」も継続履修すること	最大20名・最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○果樹（実教出版） ※果樹栽培に興味関心のある生徒、将来果樹栽培に従事する可能性のある生徒を望む。		1. 果実の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 2. 果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点（ABC）	100点満点	（5・4・3・2・1）
②思考・判断・表現				100点満点（ABC）		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点（ABC）		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		果樹の種類と果樹栽培の動向	・果樹の種類と果実の利用 ・果樹栽培の動向 ※栽培管理実習 ①オウトウ：摘蕾、摘果、人工授粉、着色管理、収穫など ②リンゴ：摘花、摘果、新梢管理 ③ブドウ：結果母枝の誘引、芽かき、新梢管理、摘房、摘粒など ④セイヨウナシ：摘花、摘果、新梢管理など
	期末 考査 まで		
2 学期		果樹の生育と栽培環境	・果樹の生育と生理 ・果樹栽培と環境 ※栽培管理実習 ①オウトウ：施肥、新梢管理、せん定 ②リンゴ：新梢管理、袋かけ、着色管理、収穫、施肥、せん定など ③ブドウ：新梢管理、袋かけ、収穫、施肥、せん定 ④セイヨウナシ：新梢管理、収穫、予冷、貯蔵、施肥、せん定など
	期末 考査 まで		
3 学期	年度末 考査 まで	1年のまとめ	※栽培管理実習 オウトウ・リンゴ・ブドウ・セイヨウナシ：せん定・雪害対策

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	食品製造	2	果樹園芸	選択	3年次「食品製造」を継続履修すること	最大14名・ 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○食品製造（実教出版） ※食品製造に興味関心のある生徒、将来食品関連産業に就きたい生徒を望む		食品産業が占める位置と割合を知り、消費者が求める安全で高品質における原料・製造工程、変化を理解し、適切な技術を選択して製造できる知識・技術を学ぶ。また、身の回りの食品の種類や食品の持つ栄養的な働きを学ぶ。さらに、各種食品の変質の様子と原因を知り、各種貯蔵法の原理や方法を学ぶ。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		食品製造の基礎	食品製造の基礎 食品の分類 ※食品製造実習
	期末 考査 まで		
2 学期		食品の変質と貯蔵	食品の変質とその原因 食品の貯蔵方法 ※食品製造実習
	期末 考査 まで		
3 学期	年度末 考査 まで	食品の包装と表示 1年のまとめ	食品の包装 加工食品の表示制度 ※1年のまとめ

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	植物バイオテクノロジー	2	果樹園芸	選択	3年次「植物バイオテクノロジー」の継続履修	最大20名・最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○植物バイオテクノロジー（実教出版）△実験・実習の時には、白衣を着用。長い爪や装飾品は雑菌の混入のもとであるため厳禁とする。		植物バイオテクノロジーの基礎的な知識と技術を習得し、実践的・体験的な課題解決学習を通し、農業生産や国土保全、環境創造の視点で課題を発見し、合理的・創造的に解決する能力を養い、農業の各分野で活用するために自ら学び、農業の振興や社会貢献に種々のかつ協同的に取り組む態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点（ABC）	100点満点	（5・4・3・2・1）
②思考・判断・表現				100点満点（ABC）		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点（ABC）		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 生物に学ぶバイオテクノロジー 2 植物バイオテクノロジーの原理 3 植物組織培養の基礎 4 植物バイオテクノロジーの実際	（1） 実験の進め方、実験計画 （2） 実験器具、機器、施設 （3） 無菌操作 （4） 安全管理（器具、薬品の取扱い） プロジェクト学習（ウチョウランの栽培・培養）を一年間通して行う 毎時間の記録・観察をし、最後はまとめ・発表を行う
2 学期	期末 考査 まで	5 シンビジウムの継代培養 6 シランの無菌播種	（1） ハイボネックス無菌培地の作成 （2） 無菌播種の方法 ① 未熟種子播種法 ② 完熟種子播種法 （3） 実体顕微鏡の使い方
		7 園芸植物（草花・野菜）の組織培養	（1） 簡易器具の自作 （2） 器官・組織片の摘出 （3） MS無菌培地の作成 （4） 無菌培養
3 学期	年度末 考査 まで	8 植物バイオテクノロジーの展望	（1） 細胞融合と遺伝子組換え作物 （2） バイオマスと資源活用 （3） 地域における絶滅危惧種の保護

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
商業	簿 記	2	総合ビジネス	選択	なし	最大15名・ 最少3名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
		1 簿記のしくみを理解し、取引を記帳できる能力を身につける。 2 簿記によって作成された損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を活かして、経営の諸活動を計数的に把握できる能力を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1) 5段階
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	中間 考 査 ま で	1 簿記の基礎	1 簿記の基礎 2 貸借対照表 3 損益計算書 4 取引と勘定 資産・負債・純資産について学習し、基本的な貸借対照表を理解する。 収益・費用を学習し、基本的な損益計算書を理解する。 (1)取引を記録・計算する。 (2)勘定科目を理解し、仕訳する。 (3)仕訳帳と総勘定元帳への書き方を学習する。
	期末 考 査 ま で	1 簿記の基礎 2 取引の記帳（1）	5 試算表 試算表とは何かを理解し、試算表の作成方法について学習する。 6 決算① (1)決算の意味について学習する。 (2)決算の手続きや精算表の作成方法について学習する。 7 各種取引の処理 (1)現金預金 (2)商品
2 学 期	中間 考 査 ま で		(3)掛け (4)手形 (5)その他の債権・債務 (6)固定資産
	期末 考 査 ま で	3 決算（1）	(7)個人企業の資本 (8)販売費と一般管理費、税金 8 決算② 決算整理について学習する。
3 学 期	年度末 考 査 ま で		全商簿記実務検定3級に向けての学習 (1) 検定問題集を使いながら、検定対策の学習をする。 (2) 1月に全商簿記実務検定3級を受験する。 進んだ学習（2級範囲）を行う。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
商業	情報処理	2	総合ビジネス	選択	なし	最大15名・ 最少3名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
		1 実社会でコンピュータを活用できる力を身につける 2 実務で必要とされるソフトウェアを活用して、情報を収集し、処理し、伝達する力、または積極的に活用する力を習得する					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		1 ビジネスと情報	(1) 生活やビジネスの諸活動において情報を活用することの大切さを知るとともに、情報を取り扱ううえでの責任やルールを学習する。
		2 情報モラル	(1) 安心して I C Tを活用するために必要な法規やルール、モラルについて学習する。
		3 ビジネス文書の作成	(1) ビジネス文書を作成するにあたって注意すべき文章の表現方法や構成要素、図形や画像などの編集・活用方法を学習する。
2 学期		4 ビジネス情報の処理と分析	(1) 表計算ソフトウェアの基本的操作や関数について学習する。 (2) 情報の分析方法や分析した結果を表現する方法、統計処理の基本的な知識を学習する。 (3) ビジネス文書実務検定の上位資格(2級)取得を目指す。 (4) 11月に全商ビジネス文書検定3級にチャレンジする。
		応用的な内容	(1) 1月に全商情報処理検定3級にチャレンジ (2) より発展的な関数の学習。
3 学期			

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
保健体育	スポーツⅡ	2	全系列	選択		最大24名・ 最少4名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
□アクティブスポーツ2022総合版		①生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる ②チームの課題に応じて練習やトレーニングを考え実践し、自主的主体的に活動する集団を目指す ③公正、協力、責任、参画など社会的態度を養う					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 ネット型球技の理解と実戦（ソフトテニス） ・ルールやマナーの理解 ・基本的技能の習得 ・ゲームの攻防	・ソフトテニスの歴史やルール、マナーなどを理解し、公正・協力・責任などの態度を養う ・簡単なサーブ、フォアハンド、バックハンドなどの基本的な技能を習得する ・簡易ゲームによりソフトテニスの楽しさを体験する
2 学期	期末 考査 まで	2 ネット型球技の理解と実践（卓球） ・ルールやマナーの理解 ・基本的技能の習得 ・ゲームの攻防	・卓球の歴史やルール、マナーなどを理解し、公正・協力・責任などの態度を養う ・簡単なサーブ、フォアハンド、バックハンド、カット、ドライブなどの基本的な技能を習得する ・簡易ゲームにより卓球の楽しさを体験する
3 学期	年度末 考査 まで	3 ネット型球技の理解と実践（バドミントン） ・ルールやマナーの理解 ・基本的技能の習得 ・ゲームの攻防	・バドミントンの歴史やルール、マナーなどを理解し、公正・協力・責任などの態度を養う ・簡単なサーブ、スマッシュ、クリアー、ドリブンなどの基本的な技能を習得する ・簡易ゲームによりソフトテニスの楽しさを体験する

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
	総合的な探究の時間	2		必修	なし	最大 名・ 最少 名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
なし		1 地域社会が抱える諸問題について、自分たちの生活との関りを考えながら、自ら課題を発見し、自ら学び、考え、問題を可決する資質や能力を身につけるとともに、自己のあり方・生き方について考える。 2 情報収集や整理・分析する力を身につけ、協同的・創造的に探究活動に取り組みながら、自らの考えを表現できるようになる。 3 探究活動や進路等に関する活動を通して、自己のキャリアについて考える。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		1 課題探究Ⅰのための地域理解	(1) ガイダンス、分野希望調査、班編成、アイスブレイク (2) 町歩き、施設訪問、インタビュー等 (3) インタビュー振り返り、まとめ、分野ごと発表
		2 テーマ設定	(1) テーマを設定し、どのように探究活動を進めていくか計画する (2) 必要に応じてフィールドワークを行い、テーマを確定する (3) 中間発表に向けて、情報を整理する
2 学期		3 中間発表会	(1) ゲストを迎え、自分たちのテーマ設定に対し、アドバイスいただく (2) アドバイスいただいたことを踏まえ、フィールドワークや実施計画を立てる
		①進路ガイダンス	
3 学期		4 課題探究Ⅰ（探究活動）	(1) テーマに基づき、フィールドワークや計画を実行する (2) 自分たちの活動が問題解決につながっているか振り返る
		5 最終発表の準備	グーグルスライドによるプレゼンテーションの準備
3 学期		6 課題探究発表会	ゲストを迎え、グーグルスライドを利用し実践報告を行う
		②就職セミナー ③進路別ガイダンス ④進路体験を聴く会	